

令和5年度 京都府立南丹高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階 ・ 実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
○ 本府における総合学科高校の中核的役割を踏まえ、総合学科の特色を生かした教育活動を推進する。 ○ 確かな学力と豊かな人間性を基盤とする知徳体の調和のとれた成長を促し、自立した社会人としてたくましく生きる力を育成する。 ○ 郷土（京都・口丹波）に対する親しみと理解を深め、地域に貢献できる人材を育てるとともに、地域から信頼される学校作りに努める。	○ 「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」（課題研究）における特色ある取組を通じて時代の変化に応じて求められる資質や能力を育成する。 ○ 学びに対する多様なニーズに応じた支援の在り方の検討が必要である。 ○ 多様な進路希望の実現に向けて適切な指導を行う。また、より高みを目指す意識の高揚と実現に向けた力の育成が必要である。 ○ 基本的生活習慣の確立、規範意識の醸成、自他の人権を尊重する意識や態度を身に付ける指導を継続する。 ○ 部活動の加入生徒の減少傾向が続いており、加入率の向上と活性化を図る取組を継続する。	1 基礎学力の定着とキャリア教育の充実による希望進路の実現と個に応じた指導 2 ICTを活用した主体的に学ぶ姿勢の育成と授業の工夫 3 総合知的探究系列・テクニカル工学系列の取組の充実と特色化 4 学校行事、部活動の活性化と部活動加入率の向上 5 一人一人のニーズに応じた適切な学びの支援と新学習指導要領に基づいた指導と評価による授業の改善 6 基本的生活習慣の確立やいじめの未然防止への組織的対応等により生徒一人ひとりが安心して学校生活を送ることができる環境の整備 7 総合学科の魅力発信と地域の力を教育活動に生かした地域を活性化させる取組の推進 8 「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」・「各教科の指導」及び人権教育を通じて育てたい資質・能力の研究と総合学科の特色を踏まえた本校スクールポリシーの策定

評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題	
組織・運営	総合学科教育の充実と探究活動の推進	「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を中心とした学びを通して、これからの時代に求められる資質・能力をさらに高める取組を行う。	B	A	B	・年間を通じた「産業社会と人間」や「総合的な探究の時間」を中心とした学びの中で、様々な資質・能力の向上が見られ、生徒の運営による総合学科研究発表会を実施できた。 ・1・2年生において、学習用端末を活用した授業の工夫を各教科が実施した。今後も教職員研修を行う等、指導力の向上に努め、主体的に学ぶ姿勢の育成を目指す。 ・テクニカル工学系列では、外部との連携を積極的に行い、活動の周知に努め、また、パートナー企業を中心に、様々な活動へ協力いただくことができた。 ・知的探究系列の学年を越えた交流の実施等、多様な取組を通して、特色化を図ることができた。
		ICTを活用した学習活動を実践し、個別最適な学びと主体的な学びを推進する。	B	B		
		テクニカル工学系列の充実に向けて関係機関との連携を推進する。また、総合知的探究系列の特色ある教育活動をブラッシュアップする。	B	B		
		求める生徒像、卒業時の生徒像とともに南丹高校の教育活動の魅力を発信する広報活動を推進し、生徒募集につなげる。	B	B		
		地域の力を教育活動に生かすとともに、地域を活性化する取組を推進する。	A	A		
学習指導 進路指導	基礎学力の定着とキャリア教育の充実による希望進路の実現	指導と評価の一体化と多面的・多角的な評価を推進し、授業改善につなげる。	B	B	B	・新学習指導要領に基づいた指導と評価について検証を行い、授業改善につなげた。 ・希望進路の実現に向けた、基礎学力向上を中心とした学習指導をどのように推進していくかが今後の課題である。 ・部活動の活性化に向けて、部員の主体的な活動を支援する取組を行った。加入率向上に向けた取組は継続したい。 ・生徒が安心して学ぶことができる環境の構築に向けて、適宜ケース会議を行った。
		学習指導及びキャリア教育を充実させ、希望進路を実現するとともに、進路先においても能力を発揮できる人材を育てる。	B	A		
		学習用端末やシステム手帳を活用し、自らの行動を見直すことや計画的な生活の実践をとおして、基本的生活習慣や学習習慣の確立を目指す。	B	B		
生徒指導	主体性の育成 社会性の育成	部活動や生徒会活動の活性化、学校行事の充実をとおして、生徒の主体的な活動を推進するとともに自己肯定感を高める。	B	A	A	
		人権意識の醸成と様々な人権問題を解決する力を育成し、生徒が安心して学ぶことができる教育環境の構築に努める。	A	A		

学校関係者評価委員会による評価	・地域の力を教育活動に生かすとともに、地域を活性化させる取組の推進に向け、地域とのつながりを大切にしながら継続してもらいたい。 ・部活動の活性化など様々な教育活動を進める中で、生徒の満足感を高め、「良かった」と思ってもらえるよう、さらなる改善を図りながら引き続き教育活動を展開してもらいたい。
-----------------	---

次年度に向けた改善の方向性	・「産業社会と人間」・「総合的な探究の時間」の授業を中心に生徒の主体的な活動を引き出す学習活動の実践を目指す。 ・1人1台の学習用端末を活用した授業の工夫と実践に向けた研修等を積極的に取り入れる。 ・テクニカル工学系列の学びや取組を充実させ、パートナー企業や地域住民等との連携を深める。また、教育活動全般で地域の力を活用できるよう工夫する。 ・特色ある生徒募集につながる教育活動の実践と広報活動の方法の工夫により生徒募集につなげる。 ・生徒一人ひとりが安心して学校生活を送れる環境の整備に努める。
---------------	--

（評価の基準 A:十分達成できている B:ほぼ達成できている C:成果はあったが目標の達成には不十分である D:ほとんど達成できていない）